高蔵寺どんぐりｓ

ふれあいだより

NO 135

2022. 11. 10

ＮＰＯ法人　高蔵寺どんぐりｓ発行（☎090-1566-7767）

未来のニュータウン住民の〝足〟確保へ
石尾台で「ゆっくりカート」が始動

高齢化が進む高蔵寺ニュータウン地域は、坂道も多く移動手段の問題解決は、喫緊の課題となっているが、この対策として10月から石尾台地区内を対象にドライバー付、一部自動運転の「ゆっくりカート」が走り始めた。

背景には、数年前から、社協等の有志により、買い物や通院等に気軽に利用できる、おでかけサービスを行ってきたことがある。移動手段に不便をきたす住民を対象に、空いている時間の自家用車を提供してもらい、毎月数十人が利用し、それなりに便利であった。その後、春日井市都市政策課、名古屋大学が連携し、将来を見すえて、自動運転カートの実証実験を始めるにあたり、町内組織がまとまっている石尾台地区が選ばれ、本格的に導入された。

当地区には、町内会自治会が１１団体もあり、ゆるやかな統合組織の石尾台協議会（約1600世帯、4600人）をつくっている。地域に共通する夏まつり、福祉、防犯、住環境整備等、暮らしに関わる案件を一緒になって考え、暮らしがより少しでもよくなるように取り組んでいる。9月に新たに導入された7人乗り手動運転のカート（**写真**）に試乗してみたが、乗り心地はすこぶる快適である。

車両はヤマハ製、最高時速20ｋｍ。近くの病院やスーパー等の商店、地区内行事、友人宅等に行くには、うってつけである。そのため、地区内に百箇所以上の乗降所を設け、運行時間９～16時、一日前に申し込めば、自宅のすぐ傍までに来てくれる。利用会員になれば、会費2千円、1回百円、会員にならなくとも、1回3百円と安い。また、町内会等団体単位で加入すれば、利用会費は、さらに安価になる。

これからの運営は、地元有志により設立登記された「石尾台ＮＰＯ法人おでかけサービス協議会」となり、安定した事業にするため、普及宣伝活動で会員増を図っている。日常活動で、活発に動くのは主婦層が多いので、有志による支援組織づくりも進んでいるようだ。

当面は、行政等関係部門から各種助成で収支は見合っているが、石尾台地区に限定した運行なので事業性に不安がある。確固とした事業運営には、将来を見越して、如何にメリットがあるかを訴え、利用会員を増やしていくことが鍵となる。今は車を運転できるが、病気や怪我等で足腰が立たなくなることもある。いつかは免許返上もある。また、相互扶助の観点からもこのような交通手段は、いづれ必要になることは自明の理である。春日井市も後押しし、差し迫った足の問題解決に向けて、ニュータウン交通システムの試金石になりうるので、注視していきたい。

（**堀内　泰**）

高森山を巡り秋の自然観察会

珍しい昆虫の生態に興味津々

高森山で10月15日、今年度3回目となる自然観察会を会員13名が参加し開催しました。秋とはいえ汗ばむ暑さ。もっと熱かったのは参加者の動植物への眼差しでした。アサギマダラが訪れるであろうヒヨドリバナを観ながら山麓を一周。蛾の幼虫に寄生するホウネンタワラチビアメバチの繭（**写真**）が長い糸で揺れていました。切り株の地衣類の中に、それを食べているヒモミノガの幼虫。ゴンズイがピンクの実から黒いタネを覗かせていました。

これまで多くの会員のご協力で植物150種、昆虫110種余りが確認されています。そして来期は多くの子供達とともに観察することを夢見ています。（**山口正恵**）

私の朝・昼・晩

ウクライナ侵攻と強権国家

今年2月にロシアのウクライナ侵攻が始まり、約8ヶ月が過ぎました。軍事超大国のロシアの軍事力からすれば、軍事小国ウクライナは持って数ヶ月と予想される人も多かったと思いますが、ウクライナ国民の不屈な精神による抵抗と西側諸国からの支援もあり、9月を境に形成は逆転し、ロシアの敗走、部分動員によるロシア若者の国外逃避など、ロシアの旗色が大変悪くなって来ています。クリミア橋爆破の報復として、ミサイル、ドローンによるウクライナ全域への無差別殺戮テロをロシアが行うという修羅場になっています。

「貧富のない社会実現」を目指したマルクス主義を掲げたソ連の継承国であるロシア、共産党、労働党が支配する中国、北朝鮮が、貧富の格差が大きく、特権階級が固定化され、市民活動で最も大切な「自由」「民主主義」等の価値観だけでなく、子どもや女性を含めた尊い人命や人権がないがしろにされる現実を見ると、歴史上の皮肉で残酷な結論と言えます。

政治的に課題が多い今の日本ではありますが、自由に発言でき、民主的な方法でリーダーを選ぶことができる現状に感謝し、その大切さを改めて痛感する日々です。（**奥村　昇次**）

楽農会の芋煮会、今年も見送り

秋の実りを祝う、部会「活き活き楽農会」の恒例行事「芋煮会」が、今年も開催を見送られた。これで３年続きの中止となった。

運営協議会では、コロナ禍で中止していた各種イベントが続々再開していること、高齢者の3回以上のワクチン接種が進んでいることなどから、３年ぶりの開催に踏み切る方向で固まった。しかし、念のため事前の参加予定者を募ったところ、半数以上の会員から欠席の回答が寄せられた。

理由はいろいろ添えられていたが、基本的には「新型コロナ感染が不安」という反応が多く、「時期尚早」との判断となった。大鍋に畑で収穫したサトイモはじめ野菜、肉などを豪快に煮る芋煮の味は格別と喜ばれていた。作物の出来などを語り合う会員同士の交流の貴重な機会でもある。来年こそ再開したいと期待している。

すまい困りごと無料相談

●電話または直接面接会場にお越しください

☎080-5297-8956（長谷川）

面接相談会日;11月19日（土）12月11日（日）

（いずれも13：30～16：00）

会 場；東部ほっとステーション

（サンマルシェ南館1階）

ハート・ほっと・ルーム

日 時；11月27日（日）、12月25日（日）

（いずれも13：30～17：00）

会　場；東部ほっとステーション

参加費；無料

連絡先；☎090-6330-4393(浪川)